



ウラジオストク(ロシア)の歴史的街区における計画

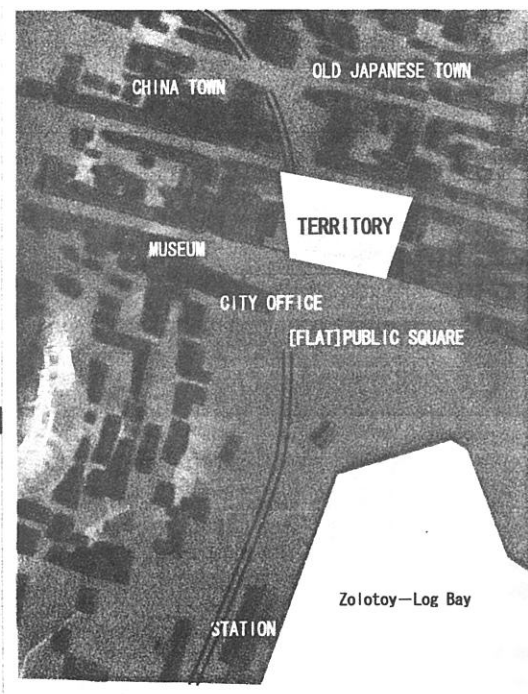
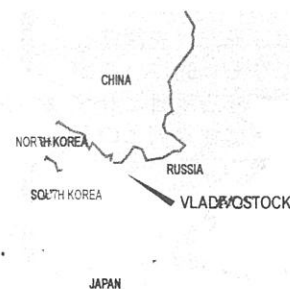
k 98038 佐藤善幸

SOCIAL VALIDITY

本計画は、国家間の軋轢が生んだ東北アジア(環日本海)地域における文化交流の遮絶、ウラジオストクの都市機能としての軍事偏重による港元来の交易、文化交流機能の喪失に対しての復権を企図するものである。

REASON FOR PRIVATE

2001年度のロシア極東地域現地調査の経験を土台とし、ウラジオストクにおける都市空間を媒体とした西欧と東北アジア地域の文化的混交の事実を背景とした特異な都市構造の分析を試みた。私的な学修の指針は、その建築史や都市形成史の研究成果を、設計のプロセスにおいて共有・昇華することにある。

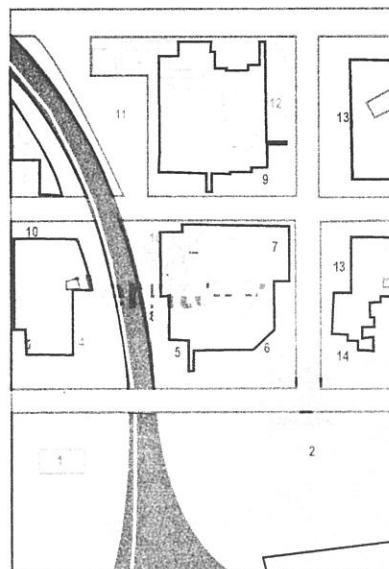


HISTORICAL BACKGROUND

ウラジオストクは「要塞都市」として世界的に名高い。第二次大戦後は軍事的理由により閉鎖され、深いベールに包まれてきたが、現在は、その本来の地理的背景と国際情勢の変化から、ロシア極東の玄関口、日中韓露の接点となる国際地帯として注目を浴びつつある。

都市の開基は120年ほど遡るばかりであるが、不活性な市場経済を要因として、都市の基幹部の老朽化が危機的である。建造物は風土的条件に対して非合理に西欧的で、街を覆う日本の中古車(九割以上)と、多量の中国人バスツアー観光客の姿、さらに港湾に陳列された多数の旧式軍艦が、奇異な都市構造を象徴している。

ウラジオストクは我国に最も近接する異文化の突端といえる。しかし、日露両国の関係に歩みよりが見られたことはかつてない。その事実、過去に多くの悲劇を生み、いまだに外交の場に重大な課題を残している。この都市に日本人街区が形成され、独自の生活圏を築いていたことは、ほとんど知られていない。周知の事実でもあるが、戦後、われわれがこの都市を自由に訪れることが可能になってから、まだ十年しか経っていないのである。



FIELD WORKS

- almost in ruins / no use zone
- Historical Preservation Structure
- Underground Space (railroad)

- 1: City office
- 2: Heroic monument
- 3: Hotel [almost in ruins]
- 4: College [in ruins]
- 5: Department store [almost in ruins]
- 6: Casino/Bar [almost in ruins]
- 7: Consulate general of Japan [in ruins]
- 8: Shopping mall
- 9: Japanese department store [almost in ruins]
- 10: Shops
- 11: Bus terminal
- 12: Shops
- 13: Shops / Restaurant [almost in ruins]
- 14: Department store

Ultimately the task of architects is precisely to create the cultural definition of the built environment

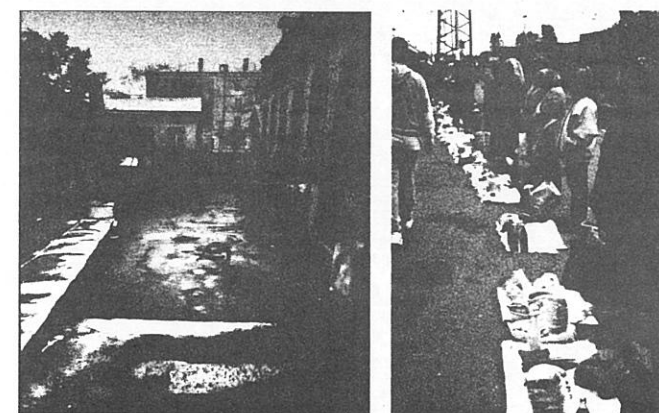
INTEGRATIVE STRATEGY

もはや建築は、「建てること」だけでは成立しない。今後は東京という都市でも必然的に既存建物の改修、増築などといった部分が建築行為の主流となるだろう。従来の都市再開発のようにある範囲を根こそぎつくり変えてしまうのではなく、既存の建築やランドスケープと協調し、相互作用の発生を促すための場を創ることが今日的な課題であると考えられる。

本計画においては、新設の機能を既存構築物に付加させるための空間概念として「門内」という語を用いている。ゆえに本計画は「門内」の分析結果によるところが大きい。「門内」とは、かつてウラジオストクに起居していた日本人独特の空間利用が生んだヴォイド空間で、日本人の生活空間の痕跡である。「門内」というヴォイドを意識的に周囲との連結を図る機能としていることが本計画における構成の主導的部分である。



革命戦士広場から敷地周辺を眺める



残余する「門内」の空間

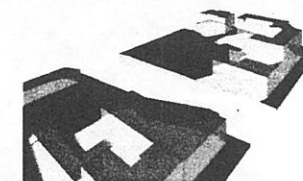
市場の一例

□ ウラジオストクの現状と課題

- ・資本主義経済機構との軋轢と[市場]の存在
- ・中心市街地建造物、インフラストラクチャーの老朽化
- ・廃墟、空地が広がる一方で、観光需要が拡大
- ・東北アジアにおける私的な交流機能の必要性

□ 計画の概要

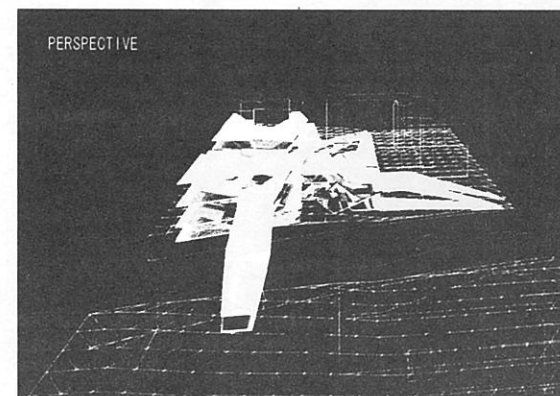
- ・都市の隙間に寄生する市場、露店の活用
- ・老朽化した建造物との有機的接合
- ・リノベーションという技術的課題を含む国際交流施設の計画
- ・新たな公共空間の提案



傾斜地と歴史的建造物群
さらにシシベリア鉄道により中央を挟まれた複雑な敷地形状

ARTIFICIAL FOUNDATION and SLABS

MIXED STRUCTURE



DATA

SITE : VLADIVOSTOK, RUSSIA
GROSS AREA : ≒ 21,300㎡
TERRITORY : Historical district, Railroad
STRUCTURE : Concrete shell, Glass curtain wall, Glass paneling
MATERIAL : Landscape, Glass, Concrete, Steel

CONTENTS :

- ・ Market
- ・ International Cultural Center (International Conference Center, Library)
8世紀からの環日本海交易、国際交流の拠点としての歴史、そして近現代の「断絶」の間に空間を解き放つ
- ・ Historical Preservation and Shopping Mall — Fabric Responsible Type
廃墟とヴォイドに埋没した日本人の生活空間——「門内」——を読み取り、現代において復活させる
- ・ Hotel / Restaurant / Entertainment etc.
可変的な社会的実情から現在必要とされる都市条件を挙げる